

令和4年度第3回佐賀県建設工事入札審査会 会議結果

開催日時	令和5年3月20日(月)10時から11時30分まで										
開催場所	グランデはがくれ フラワーホール A(佐賀市天神2丁目1-36)										
出席者	(委員) 深川委員、赤星委員、東島委員、帯屋委員、倉富委員 (事務局) 建設・技術課長 他5名 (審査対象機関) SAGA2024 施設調整チーム 佐賀中部農林事務所 唐津農林事務所 佐賀土木事務所 杵藤土木事務所 有明海沿岸道路整備事務所										
会議の公開・非公開	公開(ただし、自己採点型以外の総合評価落札方式による入札案件の個別評価点に係る審査については、非公開)										
非公開理由	自己採点型以外の総合評価落札方式による入札を行った案件の個別評価点(評価の内訳)については、個別企業の技術者に係る個人情報や企業独自の技術的情報が含まれるため。										
会議概要	<p>審査対象期間(令和4年9月1日～令和4年12月31日)に契約した3,500万円以上の工事141件の中から、委員が抽出した10件の工事について審査</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">抽出案件</th> <th>10件(3件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">内 訳</td> <td>一般競争入札</td> <td>0件(-)</td> </tr> <tr> <td>条件付一般競争入札</td> <td>10件(3件)</td> </tr> <tr> <td>随意契約</td> <td>0件(-)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※()は、自己採点型以外の総合評価落札方式の件数</p>	抽出案件		10件(3件)	内 訳	一般競争入札	0件(-)	条件付一般競争入札	10件(3件)	随意契約	0件(-)
抽出案件		10件(3件)									
内 訳	一般競争入札	0件(-)									
	条件付一般競争入札	10件(3件)									
	随意契約	0件(-)									

審議概要

委 員	県(○発注者、◆事務局)
<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合評価落札方式(自己採点型以外)による条件付一般競争入札の3案件の個別評価点(評価点の内訳)に係る審議等については、非公開とする。 	
<p>1 報告事項</p> <p>① 契約状況</p> <p>② 指名停止等の運用状況</p>	<p>◆配布資料により説明</p>
<p>2 審議事項</p> <p>資料番号 12 <佐賀土木事務所></p> <p>道整交金 第 0130333-002 号</p> <p>佐賀環状東線(牛島工区)道路整備交付金工事(橋梁下部工)</p> <p>◎入応募者数・入札者数が1者のみで、落札率は100%である。応募者・入札者が少ない理由、落札率が高い理由として、何が考えられるか教えていただきたい。</p> <p>交通量の多い道路での橋の架け替えであるが、悪条件も勘案した予定価格設定ができれば、競争が促せるのではないかと。</p> <p>◎今の説明で難しい工事であること、応募者・入札者が少ない理由等は十分理解できた。</p> <p>◎難しい工事であること理解できたが、そこを配慮して予定価格を設定すれば応札者が増えたのではないかと。</p> <p>◎また、入札参加条件の「佐賀県内に本店を有する建設業者」というところを緩めれば、技術力の高い(県外の)業者が参加できるのではないかと。その点の考</p>	<p>○当該工事は三期に分割して実施している佐賀江大橋架替え工事の最終年次となる第三期目の工事となっており、一期目に施工を行った下流部の橋台と二期目に施工した上流部の橋台と、今回中間部に新設する橋台との一体化が必要となる難易度が高い施工条件となっている。</p> <p>○通常このような工事の場合、迂回路を設けての工事となるが、今回は街中であり、店舗等もあったため、三期に分割しての方法となった。</p> <p>○迂回路を設けずそのままの状態での作業となるため、非常に狭隘な場所で旧橋を解体する必要がある。</p> <p>○このため施工ノウハウや想定外の事態への企業(技術者)対応力が強く求められることから、結果的に応募者が1社のみで落札率が高止りしたものと思われる。</p> <p>○改善策としては現場状況に応じた積算を行っていたが、引き続き想定される現場のリスクにより対応した積算を行い応札業者を増やしていくよう取り組んでいきたい。</p> <p>○佐賀県の基本的な考え方として、「県内の業者に発注可能なものは、県内の業者に発注する。」となっており、今回の工事は技術的には県内の業者で施工可能なものと考えている。</p>

え方を教えてほしい。

◎工事が長くかかると人件費が嵩む等もあると思う。この工事は工期も長く、もう3年程行っていますよね。

◎今回、三期目の工事だが一期目、二期目も同じ状況か。技術面で難しいということで、一期目、二期目の施工業者しか参加できないような工事ではないか。

◎今回撤去が入るからか。

◎ずっと工事をしているイメージがある。そろそろ終わるか。

◎3年程、最初からだ15年程になる。県道にかかる工事で今回のような状況の場合、迂回路をつくらずそのままやっているの三期に分けて行うことになる。

また、川にかかる工事のため出水期(6月～9月)は工事をストップするためどうしても時間がかかる。

◎そうではない。一期目、二期目は違う業者が落札している。

一期目、二期目は道路外側の工事であり、三期目と違い県道にかかることはなかったため今回より比較的難易度が低く、参加者も多かった。

◎そのとおり。撤去の部分については、積算が難しく、業者から徴取した見積を採用している。

◎まだ上部工が残っている。出水期に入れば工事を引き上げてとなるので、また10月から工事を再開することになる。もう少しかかる。

資料番号28 <有明海沿岸道路整備事務所>

道改2B 第1110208-001号

国道208号道路改良(国道)(2B)工事(橋梁下部工)

資料番号29 <有明海沿岸道路整備事務所>

大道改2B 第1110208-002号

国道208号道路改良(国道)(2B)工事(橋梁下部工)

◎この二つは同日入札の人気工事であり、92%横並びとなったときの評価を確認したい。

◎資料番号28についてはくじ引きということで競争が働いていないように見える。工事の性格上評価点で差をつけるのは難しいのか。

◎資料番号12番の橋梁下部工と違い、場所が確保されており入りやすいという事情で応札者が多かったと思うが、軟弱地盤の地盤改良で技術的レベルが低い工事ということでもない。そのあたりを考慮した点は何かあるか。

◎資料番号28については、最終入札参加者7者のうち、最低制限価格92%入札が4者、そのうち評価値が同点であった3者によるくじ引きにより決定している。

◎資料番号29については、最終入札参加者4者のうち、最低制限価格92%入札が1者であり評価値も最高であったため決定している。

◎ある程度の技術力がある業者、上限値は決めているがある程度の点に到達している業者を評価し入札を行っている。今回評価項目として設定したのは、コンクリートの構造物であるため「コンクリートの品質確保」、また近くに道路が通っているため「第三者への安全対策」としているが、評価点が同点で最低価格での入札者であった業者、評価値が同じとなる業者が3者あったということである。

◎県内の業者を対象とした入札で、応募者は同種工事、地盤改良や橋梁工事の経験がある業者であるため、ある程度の技術的レベルには達していると思われる。その上で今回は「コンクリートの品質確保」「第三者への安全対策」を評価し入札を行った。

資料番号36 <杵藤土木事務所>

単河保全 第9909050-003号 廻里江川河川保全工事(河道掘削工)

資料番号37 <杵藤土木事務所>

通常砂防 第0811015-002号 柳谷川第三通常砂防(指定)工事(管理用道路)

◎入札参加者が複数にもかかわらず高い落札率になっているのは、資材高騰の影響なのか知りたい。また、各々3者の入札がありながら、同じ落札者となっている。他の工事でもみられる結果であるが入札状況の確認をしたい。

◎同じ業者が落札しているが、施工実績もある業者で、この業者が落札したいという意欲があったらと理解出来た。

○資料番号36で入札参加者が複数にもかかわらず高い落札率になっているのは、当該工事内容が河川内の掘削工事であり、資材を必要とするものではないため、資材高騰の影響ではないと考える。しかしながら、当該工事箇所は河口部の広い河川内での超軟弱土の掘削工事であり特殊な掘削機械が必要など、施工の難易度から必要経費を考慮し、落札率が高くなったと推測される。

○河口部が広いと、腕が長いバックホウ、ロングバックホウを使う必要があるが、それでも届かない場合は、台船にバックホウを載せて掘削を行うことになる。そのため費用がかかり高い落札率となったと推測される。

○また、各々3者の入札参加であったが、同じ落札者となっていることについては、3者の中で最も安い入札額であったこと、ならびに、総合評価方式(自己採点型)の入札であり、施工実績、評定点などの条件で評価が高い会社であったことが考えられる。

○資料番号37の工事に入札参加者が複数にもかかわらず高い落札率になっているのは、当該工事では生コンクリートや二次製品ブロックを使用するが、入札時点では資材は高騰しておらず、その影響は少ないものとする。ただし、その後コンクリートの価格が1.5倍ほどになっているので、価格が上がるだろうという予測でそれを見込んで入札された可能性はある。それと、当該工事箇所は山間部で、現場作業スペースが狭いため、一方向からしか工事が出来ないため効率が悪く、施工の難易度から必要経費を考慮し落札率が高くなったと推測される。

○また、各々3者の入札参加であったが、同じ落札者となっていることについては、資料番号36の工事と同じ理由となるが、3者の中で最も安い入札額であったこと、ならびに、総合評価方式(自己採点型)の入札であり、施工実績、評定点などの条件で評価が高い会社であったことが考えられる。

資料番号70 <SAGA2024施設調整チーム>

国スポ整 第 1500361-005号

多久高校国スポ・全障スポ県有競技施設整備工事(競技施設)

◎入札参加者が1者で、落札率も高い。

入札経緯とともに、入札参加者が1者にとどまった理由として考えられる点をご説明頂きたい。

◎入札参加業者が1者であった理由は理解できた。

この工事は競技施設ということだが、技術者不足が解消され

○この工事は多久高校のグラウンド南側にボルダリング、スポーツクライミング用の人工壁をつくる工事である。

○入札参加者が1者だったのは、あくまで推測の域を出ないが、本工事の契約及び開札予定が10月であったことから、上半期に発注された工事に技術者が既に配置され、当時は建築会社における現場代理人や監理技術者などの技術者が少なかったのではないかと想定される。

○入札参加業者にきいたところ、当時は技術者が足らなかったとのこと。また、参加しなかった別業者2者にも確認してみたが当時(10月頃)は技術者が不足していたとのこと。

○建物はすでに建設されており、その中に壁をつくりマットを設置する工事で、県内業者で施工可能な難易度と判断しています。

ば応札者が多く見込める工事であったのか。特殊な工事のため参加者が少なかったということはないのか。

◎時期的なものを参加者が少ない理由とされているが、この時期に技術者が不足するのは予め予測できるのではないのか。

◎技術者が不足するということが想定できているのであれば、入札参加の条件を拡大してもよいのではと思いましたが、そうではないということでしたので理由としてはわかりました。

◎建物は別の業者が施工しているのか。同じ業者なのか。

○技術者が不足することは想定していなかった。

この工事はスポーツクライミングの競技団体と壁の形等を相談し、調整しながら進めており、この時期となった。国民スポーツ大会のための競技団体の練習期間確保もしたため出来るだけ早く発注するということからこの時期となった。

○結果的に今回は建物と同じ業者が落札しているが別業者でも施工可能なものと判断している。

ただ、建物を建設した関係から調整等はやりやすかったと思う。

資料番号94 <佐賀中部農林事務所>

経営体補 第 5213002-008 号

高木瀬地区県営経営体育成基盤整備事業工事(ほ場整備工)(令和3年度国補正)

資料番号102 <佐賀中部農林事務所>

経営体補 第 5213002-009 号

高木瀬地区県営経営体育成基盤整備事業工事(ほ場整備工)(令和3年度国補正)

◎入札参加者が1者にとどまっております。かつ落札率も高い。
また、いずれも同じ業者が落札しており、入札経緯を確認したい。
同種工事であるため 94 と 102 を併せて説明してもらいたい。

○資料番号94の入札参加者が1社で落札率も高い理由としては、ほ場整備工事の実施にあたり必要となる知識(技術)と経験を有する優秀な技術者が近年少なくなり、これらの技術者が特定の会社に在籍していることが主な原因と思われます。

○ほ場整備工事は、農地の区画整理、農道、用水路、排水路といった複数の工種を総合的に整備するものであり、工事を担当する技術者には これらの様々な種類の工事を効率的に実施できる知識と経験が必要となります。

○また、高木瀬地区は市街地に隣接していることから工事実施にあたっては関係農家のみならず、地域住民との密接な協議調整が必要となり、地元対応に高いスキルが求められます。

○ほ場整備工事は昭和の後半から実施しているが、近年工事数が減っており、ほ場整備に適したスキルをもった技術者を有する業者も減ってきている。

○資料番号102のほ場整備工事は、令和5年の麦の作付までに確実に工事を完了させる必要があったことから、複数の工区に分割して工事発注を行っています。ほ場工事は1年間休耕して工事を行うことから確実に工期内に終わるよう配慮している。

○今回ご指摘があった2件の工事については、結果として同じ業者が落札されたところですが、落札業者が自社の有する技術者の配置余力、工事施工能力を総合的に判断されたうえで応札・落札されたものと思われます。

◎技術者が減っているということ

○まず、ローカル発注、県内業者でできるものは県内業者に発注するという基本的

<p>だが、地元住民との調整等もある関係から広げるといっても難しいのか。</p> <p>◎今回の工事が基盤整備の最初の方なのか。</p> <p>以前の工事についても同じ業者しか参加していないのか。</p>	<p>考え方がある。</p> <p>今回、佐賀土木事務所管内という条件にしているが、ほ場整備自体が減っているため、県内全域に広げても状況は変わらないと思われる。</p> <p>◎既に半分ほど進んでいてあと2年程で完成の予定。いろんな業者が参加しており、全て同じ業者ではない。技術者が減ったため途中で撤退した業者もいる。途中から参加していたが条件が厳しいため数年後撤退した業者もいる。具体的に何社参加しているというデータは持っていない。</p>
--	---

◎よくわかりました。

資料番号96 <佐賀土木事務所>

災関砂防 第 0813014-009 号 原川第一災害関連緊急砂防工事(堰堤工)(災害)

<p>◎応募者数・入札者数が1者のみで、落札率は100%である。</p> <p>応募者・入札者が少ない理由、落札率が高い理由として、何が考えられるか教えていただきたい。</p>	<p>◎今回の入札は二回目の入札であり、一回目の入札では、同時期に他機関(国交省・農水省など)から複数の工事発注があったことにより、配置技術者の関係から入札不調となった。</p> <p>◎今回、他機関の発注スケジュールを踏まえたうえで、再度公告を行ったが、結果的に応募者・入札者が1社となった。</p> <p>◎当該工事箇所は、令和3年8月豪雨により土石流が発生した箇所であり、上流部には不安定土砂が残っていることや、工事現場に近接して家屋等があるなど、工事現場の作業条件が厳しい状況であることから、予定価格と同額で入札されたのではないかと考える。</p>
<p>◎砂防工事が難しいとは思っていた。現在工事は終わっているのか。</p>	<p>◎令和3年8月の豪雨災害の工事については、国交省、農水省の工事が多数発注されており、直轄工事の方が規模も大きいと利益も大きく魅力的であるということもきいている。砂防工事が現場が狭窄であり、利益が少ないと言われているということもあり、落札率100%であるが2回目で決まってよかったと思っている。</p> <p>◎家屋等の移転の交渉・調整もあり着工できていない。災害が起こってからのスタートとなるため、設計等と並行して入札を行い、手続き完了後すぐに工事に入れる状態にしているが調整に時間がかかっておりまだ工事に入れていない。</p>
<p>◎落札率100%の理由はよくわかったが、条件を県外に広げても同じ結果だったと考えるのか。</p>	<p>◎県外の業者に参加してもらう場合、県内業者より大規模の業者を想定しているが、大規模業者からすると、3億円未満の工事では、わざわざ佐賀県に拠点をつかってまで工事するほどの利益はないときいているため、県外に広げても結果は同じだったと思われる。県内業者と同規模の福岡県の業者に参加してもらう等はローカル発注の観点から考えていない。難易度の点から分割し、等級を下げることも考えていない。</p>
<p>◎落札率100%であっても決まってよかったということか。</p>	<p>◎今回の工事は、県の重要文化財に指定されている施設が関係しているため難しい面がある。</p> <p>予定価格は、数社からとった見積りの平均から出している場合もあり、100%であるから高いものであるとは考えていない。</p>

資料番号132 <唐津農林事務所>

溪流等県 第 7111228-003 号

中川地区溪流等県土保全緊急対策事業工事(抑制・抑止工)(災害)

<p>◎入札者1者で、落札率は100%である。</p> <p>その背景として何が考えられるか教えていただきたい。</p>	<p>◎当該工事は、施工箇所が離島であり、資機材の運搬や支障木の処理などにおいて制限があることから、設計時には、標準的な積算が難しい場合は、現場に合った見積りを徴収するなど適正な予定価格を設定するとともに、アンカー工の受圧版に施工性に優れた既製品を採用するなど、施工性にも考慮して行った。</p>
--	--

◎離島の特殊条件が影響しているというのはよくわかった。辞退した業者に理由の聞き取りは行っているか。

○下請業者を探す中で、作業員の船での移動に加え、資機材運搬に必要な台船の手配など、内地の工事にはない難しい工程管理や施工管理が求められることから掛かり増し費用の懸念があることに加え、下請業者の手配の難しさもあり、業者が受注を敬遠したようである。

○また、落札率が100%となったことについては、応札者聞き取りの結果、定期便の発着時間や天候による欠航による作業時間の制限、台船のチャーターの際に他業者との競合があり必要な時に資機材を搬入できない恐れがあり、工事が計画どおりに進捗しないことに伴う経費の増加の懸念、さらには、価格上昇が続く資材費増加の懸念から、高い金額での入札(落札率100%)になったとのことである。

○入札辞退者からの聞き取りによれば、下請業者を探す中で、作業員の移動、資機材の運搬等で費用が高くなり採算が合わないという判断をしたとのことである。